平成26年度　水銀体温計回収ルート実証事業

●目的

「水銀に関する水俣条約」の発行後を見据え、水銀体温計、水銀血圧計等の回収促進方策検討のための基礎的知見を得ること

阿蘇広域行政事務組合管内（1市3町2村）

＜行政人口＞　60,187人
＜回収拠点＞　役所窓口（15ヶ所）
＜実施期間＞　1か月（H27.2.2～H27.2.27）

・自治体の既存の回収方法と広報網を利用した負担の少ない回収モデルを構築。
・既存の回収拠点に加えて、役場窓口・事務処理センター等、計15ヶ所に専用回収ボックスを設置。

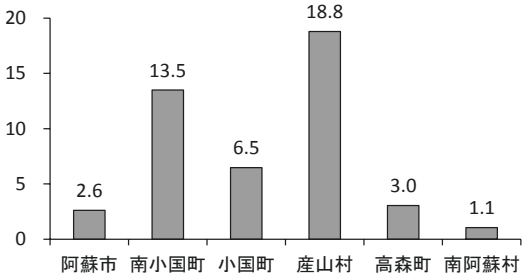
▼専用回収ボックス

●結果

水銀体温計	414本
水銀血圧計	57台
水銀温度計	5本
水銀換算量	計約3.4kg

・右図は阿蘇地域各市町村ごとの回収率である。
・既存の文献より、1世帯当たり0.4本の退蔵数があるとして試算した。

各自治体における
水銀体温計推計退蔵数に対する回収率



北海道旭川市

＜行政人口＞　346,831人
＜回収拠点＞　薬局（184店舗）
＜実施期間＞　1か月（H27.2.1～H27.2.28）

・既存の回収方法（ステーション収集）とは別に、北海道薬剤師会旭川支部の協力を得て、薬局の店頭に専用回収ボックスを設置。
・184店舗の薬局に設置、111店舗に持ち込みがあった（60.3%）。
・市民イベントにおいてアンケートを行い、計181名から回答を得た。

●結果

水銀体温計	435本
水銀血圧計	94台
その他	5点
水銀換算量	計約5.2kg

・既存の文献より、1世帯当たり0.4本の退蔵数があるとして、回収率を試算すると、**0.5%**であった。
・アンケート結果より、1世帯当たり0.5本の退蔵数があるとして、回収率を試算すると**0.6%**であった。

※旭川市では、通常のごみ処理の一環で、ごみステーションでも体温計等を回収しているため、阿蘇地域と比較すると回収率が低い結果となったと考えられる。

●まとめ

○短期集中型の実証事業により、想定以上の効果が得られたとの自治体意見が多くあった。
○既存の回収システム等の地域特性を踏まえ、より有効かつ多様な拠点整備を図る等により効果的な回収モデルを構築できる可能性が示された。